



5 スタジイとツブラジイ (ブナ科)
樹皮に縦の割れ目が入っているのがスタジイで、滑らかなのがツブラジイ。すぐ近くに並んでいるので比べてみると面白い。



4 ラクウショウ (スギ科)
別名ヌマスギ。水辺など湿気の多い場所を好む。ここでは見られないが、酸素不足を補うため根が地面に突き出る「呼吸根」がある。

1 アメリカスズカケノキ (スズカケノキ科)

アメリカスズカケノキの褐色の樹皮は粗くはがれているが、雑種のモミジバスズカケノキの樹皮はうろこ状にはがれてスベスベ。すぐ近くに並んでいるので、比較するのに最適なスポット。



2 ヒマラヤスギ (マツ科)

別名ヒマラヤシーダー。夏に大きなマツカサができるが、晩秋にばらけて落ちる。その外観から、子どもたちには「おぼけの木」と呼ばれている。



3 ドイツウヒ (マツ科)

9月頃に見られるマツカサは大きくて細長い。光が丘公園内には芝生広場の1本だけ。若枝は赤味を帯び、葉の断面は菱型。



散歩ウォッチング特別版

光が丘の「樹木」を見に行こう!



Kacceの人気コーナー「散歩ウォッチング」でお馴染みの森野かずみさんと、光が丘の樹木観察スポットを巡ってきました。

森野かずみさん(ペンネーム)
光が丘在住。地元の樹木や草花の観察をしながら35年散歩を続けている。



自然観察の大ベテランである森野さん。楽しみ方のコツは、とにかくたくさん見ることだと言います。

「興味があればネットや本で調べ、覚えていくと散歩がますます楽しくなっていますよ」

昔、光が丘公園で子どもたちから「あれは何という木？」と質問攻めに合い、それがきっかけで樹木や草花を調べるうちに自然観察にハマったそうです。ちなみに光が丘の良いところは、歩道橋が多いこと。

歩いているだけでは気付かないことが見えるんです」

森野さんと一緒に、数十種類におよぶ樹木や植物を見て回ること2時間半。自然観察の面白さに触れ、森野さんの豊富な知識に圧倒されました！

「家から1〜2km圏内の身近な散歩でも、自然観察はもちろん、今まで見過ごしていたお店や野菜の直売所などを見つけた楽しみもありますよ」

「観察眼」を意識しながら歩けば、いつもの散歩道が新たな発見の場になるかも!?

6 一オサルスベリ (ミソハギ科)

発芽して1年目から花が咲き、夏から秋にかけて長い期間、花が楽しめる。

7 マルバデイゴ (マメ科)

アメリカデイゴの栽培品。6〜9月に赤い花を咲かせる。新しい枝から咲くので、毎年枯れ枝を刈っている。光が丘エリアで見られるのはここだけ。



10 クヌギとコナラ (ブナ科)

樹皮や葉、実(ドングリ)の形で見分けられる。クヌギの実丸くて成熟まで2年かかり、コナラの実は細長く1年で成熟する。

◀クヌギの実



9 ユリノキ (モクレン科)

別名ハンテンボク。初夏に、黄色〜橙色のチューリップのような花を咲かせる。マグノリア園には、園芸品種のファスティギアタ(立性)とオーレオマルギナータム(黄覆輪葉)が植栽されている。



8 メタセコイヤ (ヒノキ科)

別名アケボノスギ。④のラクウショウと似ているが、メタセコイヤは2枚の葉の長さが均一で対生し、ラクウショウは長さが不揃いで1枚ずつ互い違いに互生している。

